

体育理論2「フェアプレー②、日本とオリンピック」授業案

対象：中学2年生 40または41名

本時の位置：3時間中の2時間目

授業の目標：

- ① フェアプレーやスポーツの価値について考え、日常生活においても活用できる視野を持てるようになる。
- ② 日本とオリンピックの関わりと日本で開催されたオリンピックについて学び、理解を深める。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	<前時の復習>	
展開 I	<フェアプレー Part2 話し合い活動> ◆グループ話し合い⇒発表 ◆私たちの身の回りにあるフェアプレーの精神が求められる場面とふさわしい行動について話し合う。	◆各自調べてきた事例をグループで紹介し合う。それを用紙に書かせる。 ◆フェアプレーの精神を日常生活に活かすために、どんなことができるか考える。
展開 II	<アンチ・ドーピング> ◆ドーピングとはどんな行為か、なぜいけないのか。 フェアプレーに反するドーピング ◆アンチ・ドーピング p.23 WADA Code JADA 認定商品マーク	◆フェアプレーの精神と関連させて学習を進める。保健分野 薬物乱用の学習 ドーピング検査の目的、そして禁止される理由を理解させる。 ◆身近な商品を紹介する。
展開 III	<語り継がれるフェアプレー> ◆ユネスコ国際フェアプレー賞 <勝敗を超えた友情 ～友情のメダル> ◆1936年「友情のメダル」	◆具体的な例を挙げる。P.21 ◆友情のメダル p.22
展開 IV	<日本と近代オリンピック> (1)本校の元校長 嘉納治五郎とオリンピック ◆精力善用・自他共栄、武道精神とオリンピズム (2)日本人の活躍 ◆1928年9回アムステルダム 日本人初金メダル織田幹雄 織田ポール(国立競技場) 人見絹江：銀メダル 日本人女性初メダル ◆1936年11回ベルリン 日本人女性初金メダル前畑秀子 前畑がんばれの実況中継を聴く(当時に戻る) (3)東京オリンピック 1964年10/10アジア初 体育の日 ①電光掲示板：クーベルタン 参加すること意義ある p.4 ②選手の活躍 ③オリンピック・レガシー ⇒戦後日本の国際社会への復帰 柔道、体操、レスリング、女子バレー「東洋の魔女」 ヘーシンク、アベベ、円谷幸吉ら (4)冬季大会 1972年札幌、1998年長野 ◆アジア初 スキージャンプ競技(日の丸飛行隊) ◆一国一校運動 (5)未来のオリンピック ◆2020年東京オリンピック招致活動	◆生誕 150周年記念誌を配布し、簡単に説明する。 ◆日本で開催されたオリンピックについてさまざまな知識を学ばせる。 ◆三段跳 15m21：校舎 4F 手摺より高い ◆女子 800m ◆オリンピックが開催されたことで、日本にどんな影響があったか考えさせる。 ◆現在東京で普段から利用しているものの中に、オリンピックに関わって建設されたものが多くあることを知り、オリンピックのレガシーについて考えさせる。 ◆自分たちの身近にある施設について、その歴史を理解させる。 ◆有形無形のレガシー：新幹線、首都高速道路、生涯スポーツという考え方の広がり ◆オリンピックは復興への支えとなるのか考えさせる。
まとめ	本時の学習を振り返り、学習成果を確認する。次回予告。	